

沼津市新市民体育館整備基本計画

平成 29 年 8 月 31 日

沼 津 市

— 目 次 —

第1章 現状と課題	P1
1-1 経 過	
1-2 市内スポーツ関連施設の整備状況	
1-3 体育館の利用形態	
1-4 利用形態別の特徴	
1-5 利用形態別の現状	
1-6 利用形態別の実績	
1-7 利用形態別の課題	
第2章 新市民体育館に求められるもの	P11
2-1 継承するもの	
2-2 強化・改善するもの	
2-3 新たに加えるもの	
2-4 関連計画上の新市民体育館の位置づけ	
第3章 新市民体育館の基本コンセプト	P13
3-1 新市民体育館が指すもの	
3-2 新市民体育館の4つの「基本コンセプト」	
3-3 新市民体育館の目標	
第4章 新市民体育館に導入する機能	P15
4-1 競技スポーツ・生涯スポーツ機能	
4-2 健康づくり・体力づくり機能	
4-3 その他の機能	
4-4 各諸室の床面積・配置の想定	
第5章 新市民体育館の整備概要	P22
5-1 建設地の概要	
5-2 施設整備の方針	
5-3 事業運営の方針	

第1章 現状と課題

1-1 経過

本市では、「市民総スポーツ」を基本理念に掲げ、市民誰もが気軽に利用できるスポーツと健康づくりの拠点として昭和48年に市民体育館を建設しました。開館以来、本市の屋内スポーツの拠点機能を担うとともに、市民の生きがいやコミュニティづくりに重要な役割を果たしてきました。

近年は、時代の移り変わりとともに健康志向の高まりなども相まってスポーツに対するニーズは多様化・高度化しており、市民体育館についても量的・質的な充実が求められています。

一方で、市民体育館は、建設から40年以上が経過し、施設・設備の老朽化が著しく構造上の問題から耐震補強ができない状況にあります。また、市民体育館に次ぐ屋内スポーツの拠点施設である香陵武道場と勤労者体育センターについても、同様に老朽化が著しく耐震性能が低いなどの課題があります。

このことから、平成25年度に「沼津市新市民体育館整備基本構想」を策定し、市民体育館・香陵武道場・勤労者体育センターの各機能を統合した新たな市民体育館を香陵運動場（現香貫駐車場）に移転建設することを決定しました。新施設では、本市屋内スポーツの拠点として、その機能を引き続き担うとともに、新たに大規模災害時の防災拠点としての機能も担います。さらに、狩野川や沼津アルプスなど周辺の地域資源の有効活用を図るとともに、隣接する市民文化センターと協調することにより、市中心部に新たな賑わいと回遊性を生み出し、中心市街地の活性化に繋げていきます。

また、新市民体育館の建設に併せ、隣接する香貫駐車場の建替えと市民文化センターの改修を計画しており、エリア全体の整備方針については「香陵公園周辺整備基本計画」において示し、本計画では、基本構想で掲げた基本コンセプトの実現に向けて、新施設の機能・設備などを詳細に検討し、このたび「新市民体育館整備基本計画」として取りまとめたものです。

《 基本構想で掲げた4つの基本コンセプト 》

1 競技スポーツ大会を開催・観戦できる環境

各種競技スポーツ大会を開催するとともに、トップアスリートが参加する大会等を誘致することで、スポーツへの興味や関心を高め、子どもが夢や希望を抱ける環境を整備します。

2 生涯にわたりスポーツを楽しむ環境

市民総スポーツを目標に、あらゆる年齢層の市民が、それぞれの目的や体力に合わせて、いつでも気軽にスポーツやレクリエーションに親しめる環境を整備します。

3 健康づくり・体づくりを推進する環境

生活の中に運動を取り入れ、健康で楽しい生活が送れるよう、運動のきっかけづくりの提供と運動継続のための支援ができる環境を整備します。

4 様々な側面から市民生活をサポートする環境

大規模災害時の防災拠点施設としての機能や、市民の憩いの場としての機能に加え、十分な駐車スペースの確保やユニバーサルデザインの採用など、様々な側面から市民生活をサポートする環境を整備します。

1-2 市内スポーツ関連施設の整備状況

本市には、市民体育館をはじめ、香陵武道場や勤労者体育センターなど、複数の屋内スポーツ施設があり、各地域の小中学校体育館や地区センターについても、より身近な運動の場として多くの市民に利用されています。

【市内スポーツ関連施設の概要】

施設名称	建設時期	延床面積	利用者数 (H28年度)	耐震性能
(1) 市民体育館	昭和48年	8,123㎡	206,353人	×
(2) 香陵武道場	昭和56年	973㎡	29,084人	
(3) 勤労者体育センター	昭和56年	1,534㎡	35,757人	
(4) 勤労青少年ホーム(一部諸室を除く)	昭和43年	1,291㎡	4,344人	
(5) 旧静浦東小学校体育館	昭和54年	1,080㎡	1,279人	
■ 旧静浦西小学校体育館	昭和54年	1,139㎡	3,386人	○
■ 戸田 B&G 海洋センター(体育館棟)	平成4年	1,828㎡	15,684人	
■ 小・中学校体育館	—	—	256,568人	
■ 地区センター(多目的室等)	—	—	17,510人	

※ 利用者数のうち、勤労青少年ホームは体育室の利用者数、小・中学校体育館は社会体育(学校施設開放事業)の利用者数、地区センターは市スポーツ振興課「地域体力づくり教室」の参加者数を計上。

(1) 市民体育館の施設概要

現在の市民体育館は、沼津市制施行50周年記念事業として、昭和48年10月に開館しました。市内で最も広いアリーナ競技場と市内唯一の観覧席をはじめ、武道場やトレーニング室、卓球場などを備えた総合体育館として、現在も多くの市民に親しまれています。一方で、建設から40年以上が経過し、施設・設備の老朽化が著しく、耐震性能が低いなどの課題があります。



【市民体育館の施設概要】

項目	内容	主な諸室	床面積
所在地	沼津市高島本町1-4	アリーナ(3面)	1,939㎡
開館時期	昭和48年10月2日	柔道場(1面)	276㎡
施設構造	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)4階建	剣道場(1面)	280㎡
敷地面積	6,096㎡	弓道場(近的6人立)	160㎡
建築面積	3,422㎡	多目的室(スタジオ)	127㎡
延床面積	8,123㎡	卓球場(12台)	417㎡
駐車場	143台	トレーニング室	416㎡
観覧席	940席(固定)	健康・体力相談室	50㎡

(2) 香陵武道場の施設概要

香陵武道場は、柔道場1面（畳敷き）、剣道場1面（板張り）、弓道場（近的8人立）を有する武道専用施設として、昭和56年3月に開館しました。現在では、各種武道の大会や練習会の開催のみならず、ヨガや体操など健康づくりの場としても活用されています。一方で、建設から30年以上が経過し、施設の老朽化が著しく、耐震性能が低いなどの課題があります。



【香陵武道場の施設概要】

項目	内容	主な諸室	床面積
所在地	沼津市御幸町15-1	柔道場（1面）	275㎡
開館時期	昭和56年3月25日	剣道場（1面）	275㎡
施設構造	鉄骨造 2階建	弓道場（近的8人立）	274㎡
敷地面積	1,314㎡	観覧席	なし
建築面積	696㎡		
延床面積	973㎡		
駐車場	市民文化センター等と共用		

(3) 勤労者体育センターの施設概要

勤労者体育センターは、中小企業で働く青少年の福祉の増進と健全育成、余暇の善用の場として、昭和56年4月に開館しました。その後、時代の移り変わりとともに本施設の利用形態も多様化し、現在では、市民体育館に次ぐ第二の市民体育館として、勤労者のみならず、子どもから大人まで幅広く利用されています。一方で、建設から30年以上が経過し、施設の老朽化が著しく、耐震性能が低いなどの課題があります。



【勤労者体育センターの施設概要】

項目	内容	主な諸室	床面積
所在地	沼津市御幸町15-1	アリーナ（バスケット2面）	980㎡
開館時期	昭和56年4月25日	卓球場（3台）	95㎡
施設構造	鉄骨造 2階建	トレーニング室	119㎡
敷地面積	2,622㎡	観覧席	なし
建築面積	1,283㎡		
延床面積	1,534㎡		
駐車場	市民文化センター等と共用		

(4) 勤労青少年ホームの施設概要

勤労青少年ホームは、勤労者体育センターと同じく、中小企業で働く青少年のための施設として、昭和43年に開館しました。現在では、若者のサークル活動や運動・体操教室が定期開催されるほか、万年青大学など高齢者の集いの場になるなど、幅広い世代の交流拠点となっています。一方で、施設の老朽化が著しく、耐震性能が低いなどの課題があります。



【勤労青少年ホームの施設概要】

項目	内容	主な諸室	床面積
所在地	沼津市御幸町 15-1	1階 娯楽談話室	88㎡
開館時期	昭和43年4月26日	会議室	49㎡
施設構造	鉄筋コンクリート造 3階建	2階 講座室	76㎡
敷地面積	1,570㎡	中講座室	43㎡
延床面積	1,291㎡	3階 体育室	143㎡
駐車場	市民文化センターと共用		

(5) 旧静浦東小学校体育館の施設概要

旧静浦東小学校体育館は、平成22年度に同校が廃校したことに伴い、同年から体育館と運動場を社会体育施設に転用しました。現在では、地域住民のスポーツの場であるだけでなく、夏休み期間中などには首都圏の大学生がスポーツ合宿で利用するなど多目的に利用されています。一方で、施設の老朽化が著しく、耐震性能が低いなどの課題があります。



【旧静浦東小学校体育館の施設概要】

項目	内容	主な諸室	床面積
所在地	沼津市口野 30-23	アリーナ (バスケット2面)	1,080㎡
開館時期	昭和54年		
施設構造	鉄骨造 2階建		
延床面積	1,080㎡		
駐車場	30台		

1-3 体育館の利用形態

(1) 体育館の利用形態

市内には大小複数の体育館がありますが、スポーツの場としての利用はもちろんのこと、各地域のコミュニティを形成する上でも欠かすことのできない施設として、学校教育や災害時の地域防災、行事・式典など、スポーツ以外にも様々な目的で利用されています。



学校教育（入学式）

【体育館の利用形態】

施設名	対象エリア (主な利用者)	スポーツ利用	スポーツ以外の利用		
			学校教育	地域防災	行事・式典等
市民体育館	市域全体	◎			
香陵武道場	市域全体	◎			
勤労者体育センター	市域全体	◎			
戸田B&G海洋センター	戸田地域	◎	◎	◎	◎
小中学校体育館	各地域	◎	◎	◎	◎

(2) スポーツ利用の種類

スポーツ利用を目的別に分類すると「大会利用」、「団体利用」、「教室利用」、「個人利用」の4つに大別され、それぞれ必要とする部屋や設備が異なり、活動する曜日（平日・休日）にも特徴があります。

◎ 特に使用する部屋(優先的に利用) ○ 主に使用する部屋 【種類別の使用諸室】

諸室名		大会利用		団体利用		教室利用		個人利用		稼働率	
		平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日
アリーナ	競技場		◎	○		○				86%	90%
	観覧席		◎							-	-
武道場	柔道場			○	○	○	○			67%	49%
	剣道場			○	○	○	○			80%	77%
	弓道場					○	○	○	○	98%	92%
多目的室(スタジオ)				○	○	○	○			80%	67%
卓球場								○	○	100%	100%
トレーニング室								○	○	100%	100%

※ 稼働率は、市民体育館の平成28年度実績

1-4 利用形態別の特徴

(1) 大会利用の特徴

日頃のスポーツ技術を競う場として、学校や地区対抗などの市内大会をはじめ、全国・県大会の地区予選や本選など、数多くの大会が種目別に開催されており、大多数の大会が、学校や仕事のない休日に行われています。

また、東京オリンピックの開催が決定したこともあり、近年は、「みるスポーツ」が注目され、プロスポーツの興行試合の開催も需要が高まっていますが、施設・設備の老朽化等の問題もあり、ここ数年間、市民体育館で興行試合は開催されていません。

(2) 団体利用の特徴

団体利用は、日々の健康・体づくりや競技レベルの向上を目的とするサークル活動が主体となっており、仲間との交流を楽しみながら誰もが気軽に参加できるため、ラケットスポーツや各種ダンスなど、数多くの団体が活動しています。

また、女性主体の比較的少人数のサークルが多いこともあって、平日の昼間の利用が中心となっています。

(3) 教室利用の特徴

教室には、主に「スポーツ教室」と「健康・体づくり教室」があります。「スポーツ教室」は、技術の向上や普及を主目的に沼津市体育協会や各競技団体が開催しており、「健康・体づくり教室」は、健康増進や体力維持を主目的に、スポーツ振興課をはじめ健康づくり課や長寿福祉課などの市各課が開催しています。

(4) 個人利用の特徴

個人利用の場として、子どもから高齢者まで幅広い世代から人気の高い卓球場をはじめ、運動不足の解消や日々の健康・体づくりのためのトレーニング室、弓道場があり、日時に関係なく個々の生活スタイルに合わせて利用されています。

1-5 利用形態別の現状

(1) 大会利用の現状

大会を開催するためには、同時に複数の試合を行うための競技場はもちろんのこと、試合観戦や選手が待機・休憩するための観覧席に加え、広い更衣室や駐車場などの付帯設備も必要となるため、市内で開催される大多数の大会が、施設・設備の整った市民体育館アリーナ（競技場・観覧席）を会場にしています。

(2) 団体利用の現状

競技スポーツ大会と同様に、サークル活動（団体利用）についても、種目に応じたコートに加え、専用の設備・備品が必要となります。このことから、大会利用に比べて参加人数は少数であるものの、設備の整った市民体育館をはじめ、勤労者体育センターや香陵武道場の各諸室を利用する団体が多数を占めています。

(3) 教室利用の現状

「スポーツ教室」についても、各種目に応じた競技場と専用の設備・備品が必要となるため、サークル活動（団体利用）と同じく、設備の整った市民体育館などを利用する教室が大半を占めます。

一方で、「健康・体づくり教室」については、専用の設備・備品を使用することが少ないため、体育館のみならず、大人数が体を動かすことのできるスペースが確保された地区センター（多目的室）などを会場にする教室も多くあります。

(4) 個人利用の現状

日々の練習や健康・体づくりなど、生活の一部として日常的に利用する人が大多数を占めており、卓球場とトレーニング室については、近隣の他市町に比べ、市民体育館の利用スペースと設備が充実していることもあって、市外からの利用者も多い傾向にあります。

(5) その他の現状

市民体育館及び勤労者体育センターは、沼津市地域防災計画において災害発生時の遺体収容施設に位置づけられています。

1-6 利用形態別の実績

(1) 大会利用の実績

平成 28 年度には、市民体育館・香陵武道場・勤労者体育センターを合わせて、計 137 日、延べ 39,183 人の大会利用があり、最も多く開催された種目は卓球及びバスケットボールの 22 日で、次いでバドミントンの 20 日、バレーボールの 15 日の順となっています。

【平成 28 年度の利用実績】

種 目	卓 球	バスケット	バドミントン	バレー	フットサル	フットサル	その他	合 計
開催日数	22 日	22 日	20 日	15 日	10 日	10 日	38 日	137 日
延べ人数	7,994 人	4,472 人	5,570 人	3,805 人	830 人	1,946 人	14,566 人	39,183 人
人数/日	363 人	203 人	279 人	254 人	83 人	195 人	383 人	286 人

(2) 団体利用の実績

平成 28 年度の「団体利用」は、延べ 5,505 回（約 15 回/日）の利用があり、いずれの団体も概ね 1～2 週間に 1 回程度の頻度で活動しています。

【平成 28 年度の利用実績】

種 目	バドミントン	太極拳	体操	ダンス	バスケット	フットサル	その他	合 計
開催回数	870 回	754 回	452 回	421 回	386 回	272 回	2,350 回	5,505 回
延べ人数	11,629 人	16,187 人	8,663 人	5,490 人	5,480 人	5,102 人	38,350 人	90,901 人
人数/回	13 人	21 人	19 人	13 人	14 人	19 人	16 人	17 人

(3) 教室利用の実績

平成 28 年度の教室利用は、バドミントンや柔道など沼津市体育協会が開催した「スポーツ教室(18 講座)」に延べ 12,717 人が参加し、市スポーツ振興課が開催した「健康・体づくり教室(61 講座)」には延べ 39,764 人が参加しました。

【平成 28 年度の開催実績】

施 設 名	スポーツ教室（沼津市体育協会）			健康・体づくり教室（スポーツ振興課）		
	講座	回数	人数	講座	回数	人数
市民体育館	12 講座	428 回	9,924 人	35 講座	442 回	18,947 人
勤労者体育センター	1 講座	30 回	319 人	3 講座	90 回	3,307 人
香陵武道場	5 講座	188 回	2,474 人	—	—	—
各地区センター	—	—	—	23 講座	680 回	17,510 人
合 計	18 講座	646 回	12,717 人	61 講座	1,212 回	39,764 人

(4) 個人利用の実績

平成 28 年度の個人利用は延べ 95,795 人で、卓球 33,543 人、弓道 9,383 人、トレーニング 52,585 人、体操などその他の種目 284 人の利用がありました。

【平成 28 年度の利用実績】

施 設 名	卓球場	弓道場	トレーニング室	その他	合 計
市民体育館	29,287 人	4,907 人	50,466 人	284 人	84,944 人
勤労者体育センター	4,256 人	—	2,119 人	—	6,375 人
香陵武道場	—	4,476 人	—	—	4,476 人
合 計	33,543 人	9,383 人	52,585 人	284 人	95,795 人

(5) その他の利用実績

市民体育館のアリーナ競技場は、選挙の際に開票所として利用されています。

また、勤労者体育センターと香陵武道場については、勤労青少年ホームと隣接していることもあり、教養講座や万年青大学など生涯学習の場として利用されることも多くあります。

1-7 利用形態別の課題

(1) 大会利用の課題

市内には、学校や民間を含め大小複数の体育館がありますが、大会を開催する際に求められる競技場（競技面数）、観覧席（観戦・待機場所）、交通の利便性（駐車場・アクセス）など、諸条件が整っている施設は市民体育館しかないため、主要な大会が市民体育館に集中し、慢性的な飽和状態にあります。

バスケットボールやバレーボールなどの競技では、コート間に選手用ベンチを置く必要がありますが、市民体育館ではコート間に十分なスペースが確保できないため、コート数を減らして、大会を開催することも多くあります。

また、市民体育館には冷暖房設備がないため、バドミントンや卓球など風の影響を受けやすい競技では真夏でも窓を閉め切る必要があり、冷暖房設備の設置を望む声が多く聞かれます。

近年は、プロスポーツなどの観戦をエンターテインメントの一つとして捉えるなど、「みるスポーツ」が注目され、快適に観戦できる環境が求められていますが、市民体育館のアリーナ観覧席は片面にしかなく、冷暖房設備もありません。

利用者の声（平成 25 年度実施アンケート「新市民体育館に望む機能」より）

- 「東部の拠点都市としての期待に応えられる規模」や「全国大会が開催できるような体育館」、「バスケットコートで最低4面が取れる広さのアリーナであってほしい」、「サブアリーナは必要不可欠」など、広い競技場を望むとの回答が最も多くありました。
- 競技場に次いで、「広い駐車スペース」を望むとの回答が多く、「冷暖房設備や更衣室、シャワー室を充実してほしい」などの回答も多くありました。

(2) 団体利用の課題

団体利用は、女性の利用者が多いこともあって、平日の昼間のサークル活動が大多数を占めますが、その時間帯には小中学校の体育館が利用できません。このため、市民体育館に利用が集中し、アリーナ競技場の稼働率は非常に高い状態にあり、各団体の利用を週2回程度に制限しています。

休日についても、大会利用を優先しているため、平日に活動することが難しい学生や社会人などのニーズに十分に答えられていません。

また、子育て世代の女性がスポーツに親しむため、子どもが安全に遊べる場や託児機能が望まれますが、市民体育館にその設備・機能がないため、潜在的な利用者ニーズに答えられていません。

利用者の声（平成 25 年度実施アンケート「新市民体育館に望む機能」より）

- 「市民が広く利用できる施設」や「プロや専門集団だけの施設でないこと」など、多目的に利用できる施設を望むとの回答が多くありました。

(3) 教室利用の課題

教室利用には、「スポーツ教室」と「健康・体力づくり教室」がありますが、両教室ともに、大会利用が優先される休日には、アリーナ競技場で教室を開催することができません。子育て世代の女性が教室に参加するためには、子どもが安全に遊べる場や託児機能が望まれますが、市民体育館にその設備・機能がないため、潜在的な利用者ニーズに応えられていません。

また、スポーツ振興課をはじめ健康づくり課や長寿福祉課などの市各課が開催する「健康・体力づくり教室」は、事業名や会場は異なるものの、内容の重複もあることから、プログラムの統合や見直しなど、より効果的・効率的な事業展開を図る必要もあります。

利用者の声（平成 25 年度実施アンケート「新市民体育館に望む機能」より）

- 「小さい子どものためのキッズコーナーがほしい」など、女性や子ども、障害者に配慮した施設を望むとの回答が多くありました。

(4) 個人利用の課題

より多くの市民が健康・体力づくりを行うためには、現在の市民体育館は施設・設備の老朽化が著しく、トレーニング機器も更新されていないため、最新機器の導入や機種の実充などを図る必要があります。

また、インドアテニスやバドミントン、団体スポーツの個人練習など、少人数でアリーナ競技場を利用したいという要望も多くありますが、現状では、稼働率が非常に高く、空いている日が少ないため、個人で利用できることはほとんどありません。

利用者の声（平成 25 年度実施アンケート「新市民体育館に望む機能」より）

- 「個人でも利用できるスペースがほしい」や「子どもが遊べる施設にしてほしい」など、スポーツ利用のみならず、多目的な施設を望むとの回答が多くありました。

(5) その他の課題

市民体育館は、スポーツに限定することなく、多目的に利用することが可能な施設ですが、現状は、非常に高い稼働状況にあるため、スポーツ以外の用途で利用することが難しく、ここ数年は選挙の際の開票所としての利用のみとなっています。

また、市民体育館の機能の一つとして、大規模災害時の防災拠点としての役割も考えられますが、現在の市民体育館は、耐震性能が低い上に、トイレやシャワーなどの設備が少なく、エレベーターや多目的トイレがないことなど、バリアフリーに対応していないため、障害者・高齢者・妊婦・子ども連れなどの避難生活に対応することが難しい状況にあります。

利用者の声（平成 25 年度実施アンケート「新市民体育館に望む機能」より）

- 「緊急時に避難所として使用できる」などの防災機能を望む意見や、「エレベーターや身障者用トイレがほしい」などのバリアフリーへの対応を望む意見も多くありました。

第2章 新市民体育館に求められるもの

2-1 継承するもの

(1) 市内唯一の総合体育館

市内唯一の総合体育館として、また、県東部の拠点都市として期待される役割も踏まえ、それに相応しい規模と設備、サービスの整った施設を整備することが求められています。

※ 総合体育館とは一般的に、アリーナ（競技場・観覧席）、武道場、多目的室、トレーニング室など、複数の機能を備えた屋内スポーツ施設の総称です。

2-2 強化・改善するもの

(1) 競技場の改善

バスケットボールやバレーボールなどの競技大会を開催する際には、コート間に選手用ベンチを置く必要があるなど、アリーナ競技場の床面積をより広く確保する必要があります。

また、武道場（柔剣道場）についても、各種武道大会を開催できるよう、競技スペースを拡充するとともに、より多くの市民が多目的に利用できるよう工夫する必要があります。

(2) スポーツ観戦の場の強化

ここ数年、市民体育館でプロスポーツなどの興行試合は開催されていませんが、プロや全国大会などのトップアスリートのハイレベルな試合の観戦を通じて、子どもに夢や希望を与えられる環境が求められています。

また、今後さらなる発展が見込まれる「みるスポーツ」の観点からも、十分な観覧スペースを確保するとともに、積極的な大会誘致が求められています。

(3) 駐車場の改善

駐車場スペースを可能な限り確保するとともに、大規模な大会開催時の臨時駐車場（民間の駐車場）や公共交通機関の利用促進など、駐車場対策が求められています。

2-3 新たに加えるもの

(1) 多目的に利用できる施設

現在のスポーツ需要を満たしつつも、今後ますます進展する人口減少や少子高齢化社会を見据え、市民の健康づくりの促進やスポーツ人口を拡大することが求められており、これまでスポーツに興味や関心のなかった人も気軽に訪れ、交流し、スポーツに触れ合うきっかけともなるよう、子どもの遊び場や公園などの環境を整備する必要があります。

(2) ユニバーサルデザインへの対応

障害者・高齢者・妊婦・子ども連れなど、すべての利用者が快適に施設を利用できるよう、エレベーターや多目的トイレに加え、冷暖房設備の設置など、ユニバーサルデザインへの配慮が求められています。

(3) 周辺の施設・空間との連携

立地特性を十分に活かし、本施設の賑わいを周辺施設にも波及させ、中心市街地の活性化や回遊性の向上につなげていくことが求められています。そのためには、隣接する市民文化センターをはじめ、沼津駅周辺の商業施設や狩野川の水辺、沼津アルプスなどの魅力ある空間との相乗効果を生み出すことができるよう、周辺施設と調和・連携がとれ、工夫された施設整備と事業展開を図る必要があります。

(4) 大規模災害時の防災機能の付加

建設地は、第4次地震被害想定の中津波浸水区域に近接しているため、被災者の一時避難場所や防災資機材・食糧の備蓄倉庫など、大規模災害時の防災拠点としての役割が求められています。

2-4 関連計画上の新市民体育館の位置づけ

■ 第4次沼津市総合計画（H23年3月策定）

各種教室や市民スポーツ大会のみならず、全国レベルの競技スポーツ大会の開催も可能な総合体育館の整備を図るとしています。

■ 沼津市教育基本構想（H27年3月改定）

新市民体育館の整備においては、健康づくり・体力づくりや防災対策など、子どもから高齢者まで対応できる新たな機能を加えた総合体育館を目指すとしています。

■ 沼津市スポーツ推進基本計画（H26年3月策定）

新たな市民体育館は、市民体育館、勤労者体育センター、香陵武道場の機能を整理、集約した上で継承するとともに、健康づくり・体力づくりや防災対策など、子どもから高齢者まで対応できる新たな機能を加えた『健康スポーツ複合施設』として整備するとしています。

■ 沼津市スポーツ施設整備計画（H22年2月策定）

大規模な競技大会の開催や、益々増加、多様化するスポーツの需要に対応することのできる総合体育館が求められているとしています。

■ 香陵公園周辺整備の基本的な考え方（H27年6月策定）

「スポーツと文化を通じて、人がつながる憩いの空間」を基本理念に掲げ、中心市街地の活性化や回遊性の向上に寄与する地区として、新たに建設する新市民体育館や既存の市民文化センターを中心に、そこに集う人々が、出会い、ふれあい、つながることで、魅力やにぎわいを創出するとともに、生活に安らぎと潤いを感じられる中心市街地の憩いの空間とすることを目指すとしています。

第3章 新市民体育館の基本コンセプト

3-1 新市民体育館が目指すもの

新市民体育館は、基本構想に示した「基本コンセプト」に基づき、市民誰もが、いきいきと暮らすことができるよう、スポーツと健康づくりの活動拠点として整備するとともに、防災拠点機能や気軽に訪れ交流できる憩いの場など、様々な側面から市民生活をサポートする環境を整備します。

併せて、沼津駅周辺の商業施設をはじめ、狩野川の水辺や沼津アルプスの山々など、魅力ある空間の中継地として、相乗効果を生み出すような事業展開を図っていくことで、新たな賑わい拠点の創出を目指します。

3-2 新市民体育館の4つの「基本コンセプト」

(1) 様々な競技スポーツ大会を開催・観戦する環境 ⇒ 「競技スポーツ機能」

- ◆ 全国レベルから市内大会まで、大小様々な競技スポーツ大会を開催できる環境を整備します。
- ◆ プロスポーツなどトップアスリートの試合を間近で観戦できる環境を整備します。

(2) 生涯にわたりスポーツを楽しみ、交流する環境 ⇒ 「生涯スポーツ機能」

- ◆ あらゆる市民が、生涯にわたり、いつでも気軽にスポーツを楽しみ、世代を超えて交流できる環境を整備します。

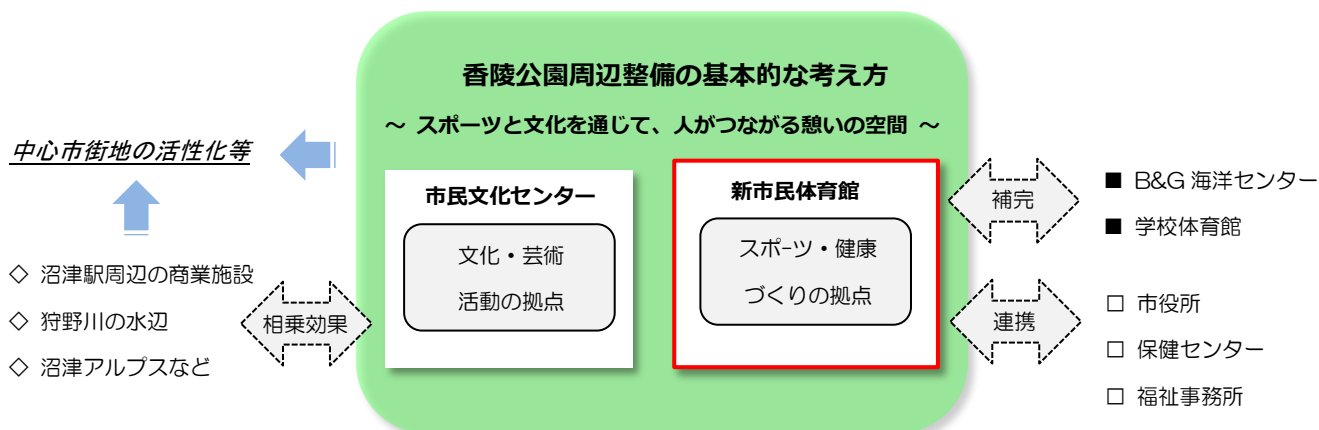
(3) 健康づくり・体力づくりを推進する環境 ⇒ 「健康づくり・体力づくり機能」

- ◆ 年齢や体力に関係なく、生活の中に運動を無理なく取り入れ継続することで、健康で楽しい生活を送ることができる環境を整備します。

(4) 様々な側面から市民生活をサポートする環境 ⇒ 「防災機能」「憩い・交流機能」

- ◆ 地震・津波などの大規模災害が発生した際の一時避難や防災資機材・食糧の備蓄倉庫など、本市の防災拠点としての環境を整備します。
- ◆ 様々な目的で訪れた市民の憩いや交流の場となるよう、オープンスペースや駐車場を十分に確保し、ユニバーサルデザインにも配慮した環境を整備します。

《新市民体育館の基本コンセプトのイメージ》



3-3 新市民体育館の目標

現在の市民体育館・香陵武道場・勤労者体育センターの各諸室の利用人数を踏まえ、同規模の他市体育館の利用状況を参考に、新市民体育館の利用者数の目標は「年間 40 万人」とします。

【新市民体育館の利用者数の目標】

機能名	諸室名	新市民体育館 (目標)	現3施設の合計 (H28実績)	増減
競技スポーツ機能 生涯スポーツ機能	メインアリーナ競技場	90,000人	74,895人	15,105人
	観覧席	※1 25,000人	—	25,000人
	サブアリーナ競技場	45,000人	29,382人	15,618人
	観覧スペース 【新設】	※2 5,000人	—	5,000人
	武道場	80,000人	53,621人	26,379人
	弓道場	20,000人	11,070人	8,930人
	フィットネススタジオ (多目的室)	20,000人	10,701人	9,299人
	卓球場	36,000人	35,945人	55人
健康づくり機能 体力づくり機能	会議・研修室 (選手控室・大会本部室)	5,000人	2,995人	2,005人
	トレーニング室	63,000人	52,585人	10,415人
	屋内ランニングコース 【新設】	1,000人	—	1,000人
	子ども体育室 (キッズルーム) 【新設】	10,000人	—	10,000人
	合計	400,000人	271,194人	128,806人

※1 メイン観覧席の目標人数は、「競技大会 200人×100日」と「興行試合 1,000人×5日」により想定 (現施設は未集計)
 ※2 サブ観覧スペースの目標人数は、「競技大会 50人×100日」により想定 (現施設は未集計)

【同規模の他市体育館の利用状況】

市名	施設名称	建設時期	管理運営	年間利用者数	人口(H29.1)	利用者数/人口
沼津市	新市民体育館	—	—	目標 400,000人	199,006人	約 2.0 倍
島田市	ローズアリーナ	平成 22 年	指定管理者	201,507人	99,971人	約 2.0 倍
掛川市	さんりーな	平成 15 年	指定管理者	214,339人	117,760人	約 1.8 倍
小田原	小田原アリーナ	平成 9 年	指定管理者	340,793人	194,818人	約 1.8 倍

※ 他市の年間利用者数は、平成 25 年度実績

第4章 新市民体育館に導入する機能

4-1 競技スポーツ・生涯スポーツ機能

(1)-1 メインアリーナ競技場

「メインアリーナ競技場」は、大規模な競技スポーツ大会のメイン会場や日常的なサークル活動、各種教室の場となるもので、バスケットボールコートで3面分を確保できる広さとします。

また、サブアリーナ競技場（バスケットボールコート2面分）と合わせ利用することで、5試合同時に競技できることから、これまで夜間や2日間にわたり開催していた大会の時間・日数が短縮され、新たな大会の誘致（参加チーム数の増）やスポーツイベントの開催などの潜在的な利用ニーズに応えることが可能になります。



メインアリーナの整備例（墨田区総合体育館）

◆ 新たな利用方法 ➡ よりハイレベルな大会の誘致が可能になります！

これまで本市で開催することが難しかった大規模な大会の誘致が可能となることから、ハイレベルな試合を間近で観戦することができ、スポーツ技術の向上にもつながります。

また、市内の高校には、バスケットボールや柔道、レスリングなど、県内でも有数の強豪校が複数あることから、これらの高校を中心に大会やスポーツ合宿などを企画・開催することで、スポーツ振興はもとより交流人口や宿泊者数の増加など、経済波及効果も大いに期待できます。

◆ 新たな利用方法 ➡ 日時を問わず、誰でも気軽にスポーツを楽しめます！

これまで平日中心であったサークル活動の休日の利用が可能となることから、より多くの市民がスポーツを楽しむことができ、スポーツ人口の拡大にもつながります。

◆ 新たな利用方法 ➡ 子どもに夢や目標を与えるイベント・教室を開催します！

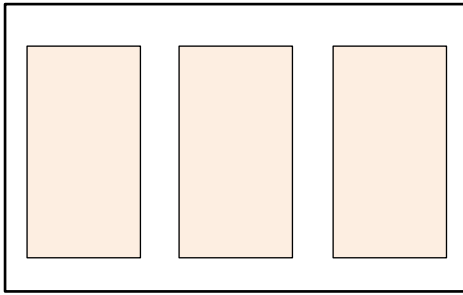
スポーツを通じて、子どもたちが将来に夢や希望を抱くことができるよう、本市ゆかりのトップアスリートを講師に招くなど、様々なイベントや教室を開催します。

◆ 新たな利用方法 ➡ スポーツだけではなく、多目的な利用ができます！

校区祭やよさこい東海道の演舞場、興行イベントなど、全天候型の大規模空間のメリットを活かした多目的な交流施設としての利活用が可能となります。

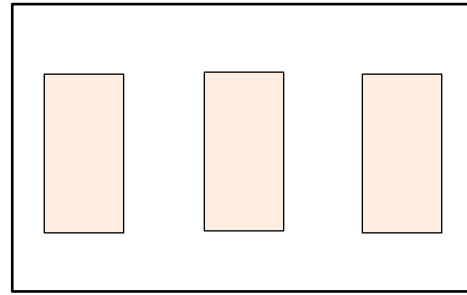
《メインアリーナの競技別レイアウト例》

● バスケットボール 3面



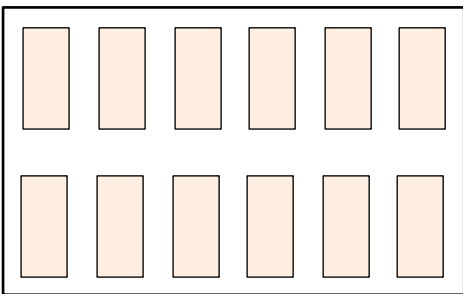
※コート間隔5m（現市民体育館2m）

● バレーボール（9人制） 3面

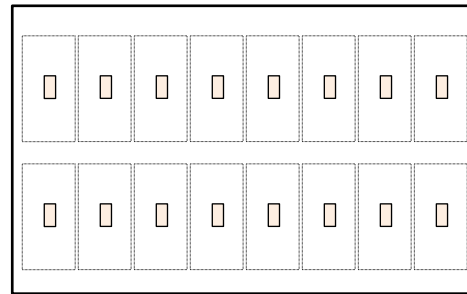


※コート間隔9.5m（現市民体育館6.5m）

● バドミントン（ダブルス） 12面



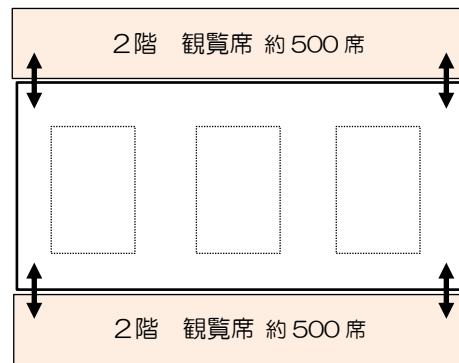
● 卓球 16面（最大36面）



(1)-2 メインアリーナ観覧席

「メインアリーナ観覧席」は、大会の開催時に試合を応援・見学する場であるとともに、出場選手が休憩待機する場としても利用するもので、約1,000人（片面約500人）を収容可能な固定席を設置します。

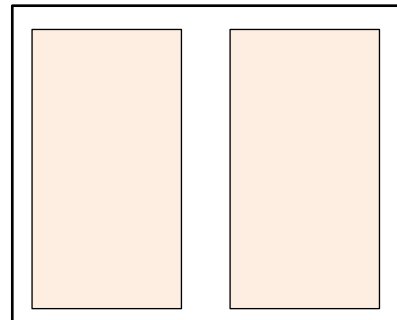
また、参加選手が競技場と観覧席（待機場所）をスムーズに行き来できるように、選手用の連絡通路をアリーナの四方に設置します。



(2) サブアリーナ競技場

「サブアリーナ競技場」は、現在の勤労者体育センターに代わる体育館として位置付けるもので、大会が集中する休日には、メインアリーナに次ぐ第二の体育館として利用します。競技スペースは、市内レベルの大会でバスケットボールコート2面分の広さを確保し、2階部分には観覧スペースを新たに設置することで、「みるスポーツ」の観点からも機能強化を図ります。

● バスケットボール 2面



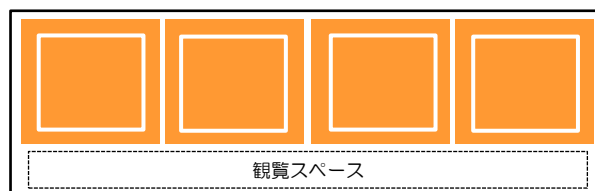
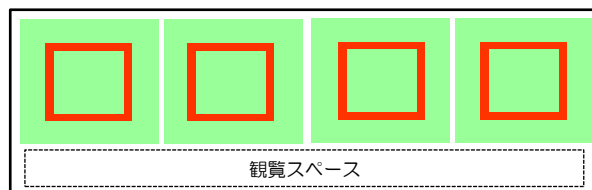
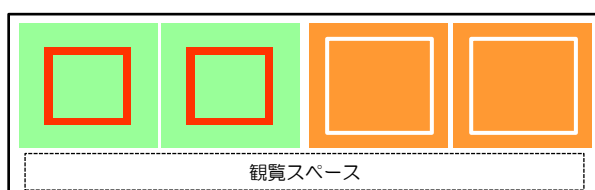
2階 観覧スペース

※コート間隔4m（現勤労者体育センター1.5m）

(3) 武道場（畳敷き・板張り）

- 柔道・合気道など各種競技大会の開催や練習道場のほか、生涯スポーツとして武道を楽しむことができるよう、「畳敷き武道場（柔道場2面）」を設置します。
- 剣道・空手・なぎなた・太極拳・居合道など各種競技大会の開催や練習道場のほか、生涯スポーツとして武道を楽しむことができるよう、「板張り武道場（剣道場2面）」を設置します。
- 柔道場と剣道場を同一フロアに併設することで、畳敷き・板張りともに最大4面で競技することが可能となり、可動式の間仕切りを設置するなど、多目的な利用にも対応した仕様とします。
また、競技場に観覧スペースを新たに設置することで、誰もが気軽に立ち寄り、見学することができることから、「みるスポーツ」の観点からも機能強化を図ります。

◀武道場（柔道場・剣道場）レイアウト例▶



(4) 弓道場

日々の練習などの個人利用に加え、教室や大会の利用にも対応した「弓道場」を設置します。

競技場は、近的（的面までの距離 28m）10人立（1.8m間隔）を基本とし、講習会や昇段試験にも対応できるよう射場に十分な控えスペースを確保するとともに、これまで設置されていなかった観覧スペース（通路と兼用）を確保することで、「みるスポーツ」の観点からも機能強化を図ります。



観覧スペースの設置例（島田市ローズアリーナ）

(5) フィットネススタジオ（多目的室）

ダンススポーツ（社交ダンス）やクラシックバレエなどの団体利用に加え、エアロビクスやヨガなどの教室利用にも対応した「フィットネススタジオ（多目的室）」を設置します。設備は、音楽使用に対応できるように音響や照明等にも配慮した仕様とします。

(6) 卓球場

生涯スポーツやレクリエーションの場として、年齢を問わず誰もが卓球を気軽に楽しむことができるよう、「卓球場」を設置します。競技場は、卓球台が8台程度置ける広さを確保します。

(7) 会議・研修室（大会本部室・選手控室）

競技大会・イベントの運営者会議や各種研修会をはじめ、体育館を拠点に活動する自主グループの会合や各種教室の受付など、様々な用途で利用できる「会議・研修室」を設置します。大会開催時には大会本部室・選手控室としても利用するため、メインアリーナとスムーズに移動できる位置（大会本部室は競技場を見渡せる位置）に配置します。

4-2 健康づくり・体力づくり機能

(1)-1 トレーニング室

運動不足の解消や生活習慣病の予防など、それぞれの目的や体力に合わせて誰もが気軽に健康・体力づくりができるよう、各種トレーニング機器を備えた「トレーニング室」を設置します。

(1)-2 健康・体力相談室（トレーニング室内に併設）

運動不足の解消や生活習慣病の予防や新たに運動を始めようとする人など、市民誰もが運動プログラムや栄養相談などを行う「健康・体力相談室」をトレーニング室内に併設します。

(2) 屋内ランニングコース **【新設】**

競技前のウォーミングアップや日々の健康づくりや体力づくりをはじめ、普段は狩野川護岸をランニングしている方が雨天時に利用するなど、メインアリーナ観覧席の通路部分を活用した「屋内ランニングコース」を設置します。



ランニングコースの設置例（島田市ローズアリーナ）

(3) 子ども体育室（キッズルーム） **【新設】**

乳幼児や児童が、安全に遊びながら基本的な運動能力を養うことができるよう、ボールプールやアスレチックなどを備えた「子ども体育室（キッズルーム）」を設置します。

また、子育て世代の女性が快適にスポーツに親しむため、市民アンケートでも要望が多かった託児機能の併設を検討するとともに、保健センターや福祉事務所と一体となった事業展開を図ることで、親子ともに自然にスポーツに触れ合い、交流できるような環境を整備します。

4-3 その他の機能

(1) ラウンジスペース

施設利用者や大会観戦者が、自由に待機・休憩する場所として、また、スポーツ利用者のみならず、多くの市民が気軽に訪れ、交流することができるよう、エントランスホールと一体的なラウンジスペースを設置します。

(2) 更衣室・シャワー室・トイレ

大会開催時の競技者に加え、トレーニング室や卓球場の利用者など、だれもが安全で使いやすいように配慮し、明るく清潔感のある更衣室・シャワー室を設置するとともに、断水時にも使用可能なトイレを設置するなど、常に清潔で安心して利用できるよう、衛生面に配慮した施設とします。

また、狩野川護岸のランニングやサイクリング、沼津アルプスの登山など、屋外スポーツを行う人も気軽に利用してもらうよう、十分な広さとスムーズな施設内動線を確保します。

(3) 器具庫

アリーナの器具庫は、競技スペースに面した場所に設置し、十分な面積を確保するとともに、外部からのスムーズな機材搬入路を確保します。

また、武道場や多目的室など、その他各諸室の器具庫についても、現施設の利用実態を踏まえ、使い勝手のよい配置と広さを確保します。

(4) 空調設備 **【新設】**

空調設備は、全館に冷暖房設備・換気設備を設置します。冷暖房設備は、より低コストで常時使用できるよう、省エネ型で環境負荷がより少ないタイプの機器を採用するとともに、バドミントンなどの風の影響を受けやすい競技種目にも配慮するものとします。



省エネ型空調設備の設置例（宇土市民体育館「輻射式冷暖房」）

(5) 駐車場

香陵公園周辺整備の中で、計画地内の新市民体育館・市民文化センターの利用者に加え、市役所の利用者にも対応した駐車場を整備します。

また、大規模な大会を開催する際などには、大会の主催者・運営者との協力のもと、臨時駐車場（民間駐車場）や公共交通機関の利用促進、シャトルバスの運行などの対応に努めます

(6) ユニバーサルデザイン 【新設】

スポーツ利用者のみならず、障害者・高齢者・妊婦・子ども連れなど、すべての利用者の利便性に支障をきたすことのないよう配慮します。

また、多目的トイレやエレベーター、駐車場などの設備や動線に「ユニバーサルデザイン」を取り入れた施設とします。



多目的トイレの設置例（葛飾区水元総合体育館）

(7) エコデザイン 【新設】

自然採光・換気や省エネルギー機器の設置に加え、太陽光発電や屋上・壁面緑化を検討するなど、地球環境に配慮した施設整備を図ります。

(8) 防災機能 【新設】

隣接する市民文化センターや市役所と共に、市の防災拠点機能を担う施設として、防災資機材・食糧の備蓄倉庫をはじめ、断水時にも使用できるトイレや自家発電設備を設置するなど、被災者の一時避難場所として使用できるように配慮した施設整備を図ります。

(9) 憩い・交流機能 【新設】

「香陵公園周辺整備の基本的な考え方」に示した基本理念「スポーツと文化を通じて、人がつながる憩いの空間」の実現に向けて、多くの市民が気軽に訪れ、交流することができるよう、隣接する市民文化センターとのつながりや相互の利用を意識した敷地整備を図ります。

また、内装に木材の採用を検討するなど、敷地内の既存樹木と調和がとれ、温かみと色彩豊かな施設とすることで、訪れる人々が安らぎや潤いを感じることができるよう配慮した施設整備を図ります。



(イメージ)

4-4 各諸室の床面積・配置の想定

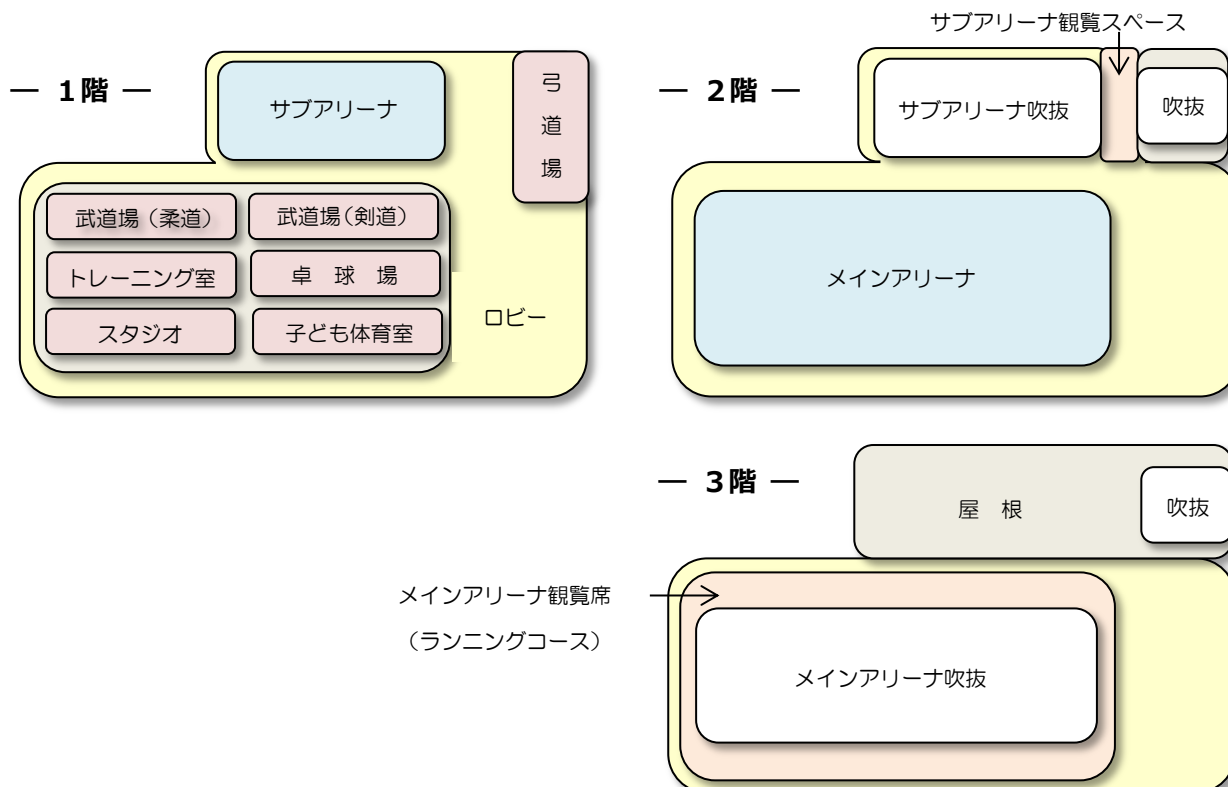
各諸室が担う機能を満たすために必要と考えられる床面積を次のように想定します。

【各諸室の床面積の想定】

機能	諸室	想定床面積	備考	
競技スポーツ機能 生涯スポーツ機能	メインアリーナ	競技場	約 2,300 ㎡	61m×38m (天井高は 12.5m以上)
		観覧席	約 1,150 ㎡	1,000 席程度 (固定席)
	サブアリーナ	競技場	約 1,250 ㎡	39m×32m (天井高は 12.5m 以上)
		観覧スペース【新設】	約 100 ㎡	80 席程度 (固定席)
	武道場 (畳敷き・板張り)	約 1,200 ㎡	柔道場 2 面・剣道場 2 面 計 4 面	
	弓道場	約 350 ㎡	近的 10 人立 (観覧スペースを設置)	
	フィットネススタジオ (多目的室)	約 150 ㎡	鏡壁面・音響仕様等	
	卓球場	約 300 ㎡	卓球 8 台程度	
会議・研修室 (大会本部室・選手控室)	約 150 ㎡	3 室 (20 名程度×3)		
健康づくり機能 体力づくり機能	トレーニング室	約 300 ㎡	健康・体力相談室を併設 (20 ㎡程度)	
	屋内ランニングコース【新設】	(約 250m)	メインアリーナ観覧席通路と兼用	
	子ども体育室 (キッズルーム)【新設】	約 150 ㎡	遊具・クッション材の床等	
その他の機能	ラウンジスペース	約 100 ㎡	4 人掛×12 テーブル程度	
	更衣室・シャワー室・トイレ	約 650 ㎡		
	器具庫 (アリーナ競技場・武道場)	約 800 ㎡		
	ロビー・事務室・機械室・通路等	約 3,950 ㎡		
合計		約 12,900 ㎡		

【各諸室の配置イメージ】

※ 本図は、各諸室の想定床面積をもとにした計画上のイメージ図であり、具体的な配置案ではありません。



第5章 新市民体育館の整備概要

5-1 建設地の概要

建設地は、市内中心部の一角に位置し、交通アクセスに優れており、本計画の基本コンセプトに示した機能を実現する場所として適地であることから、「新市民体育館整備基本構想（平成25年9月策定・公表）」において、香陵運動場（現香貴駐車場）に決定しました。

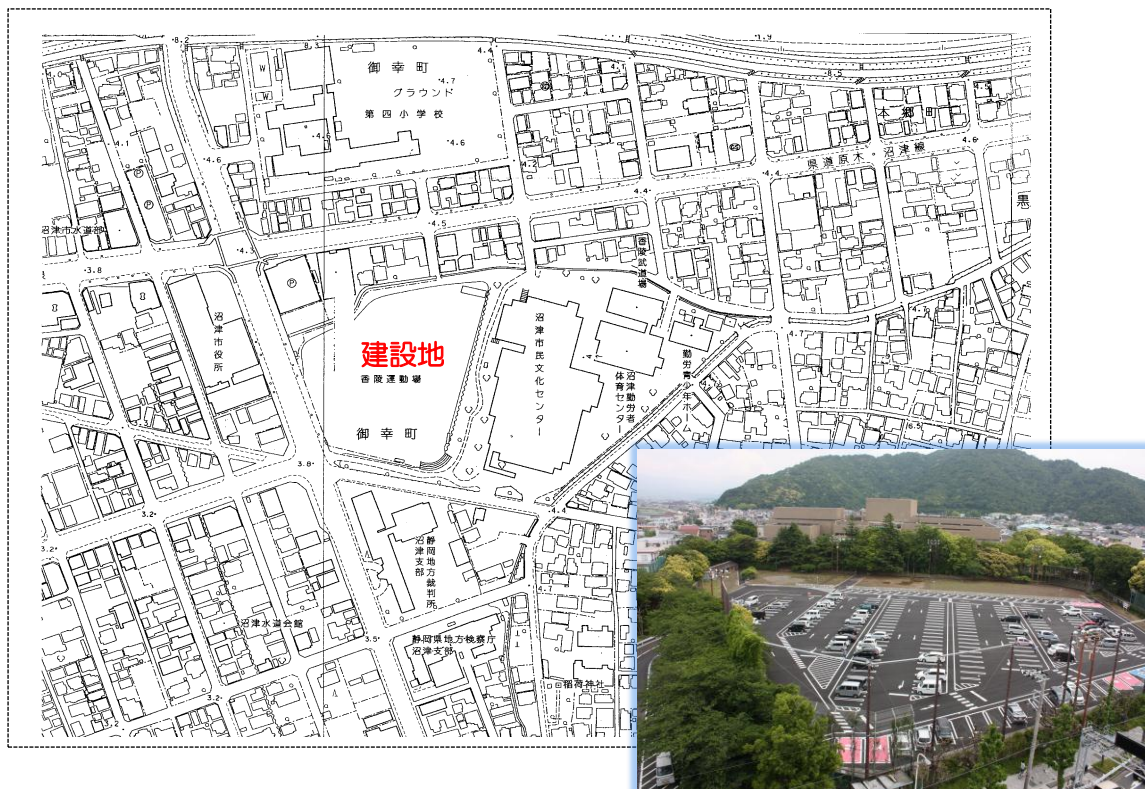
【建設地の概要】

所在地	沼津市御幸町 15-1（市有地）
現況	香貴駐車場（旧香陵運動場）
敷地面積	16,321 m ² （グラウンド部分は約 12,000 m ² ）
アクセス	沼津駅から約 1.2km（直線距離で約 900m）
周辺環境	市民文化センター・市役所・香貴駐車場等が立地
用途地域区分	近隣商業地域（準防火地域）・第一種住居地域
容積率	300%・200%
建ぺい率	80%・60%
日影規制	第一種住居地域において規制あり

※ 用途地域・容積率・建ぺい率は、敷地が二つの地域にまたがっているため併記しています。

※ 都市計画公園（香陵公園）は、平成29年8月4日付け廃止しました。

【位置図】



5-2 施設整備の方針

新市民体育館の施設整備にあたっては、現在のスポーツ需要を満たしつつも、将来の人口減少や少子・高齢社会を見据え、市民体育館と同様に老朽化が著しく耐震性能の低い同種の施設が、今後とも担うべき機能を新施設に集約（既存施設は除却）することで、本市が保有する公共施設の総量の最適化を図ります。

また、将来にわたり、市民体育館を安全で快適に利用し続けられるよう、長期的な予防保全計画の下、適正な維持管理・修繕と定期的な施設改修を行うことで、施設の長寿命化を図ります。

(1) 事業手法

香陵公園周辺整備の中で、周辺施設も含め施設整備と事業運営を一体的に行う「PFI手法（BOT方式）」・「指定管理者制度」の採用により、民間が持つノウハウの積極的な活用を図ります。

(2) 資金計画

市の財政負担の軽減と平準化を図るため、PFI手法による民間資金を活用するほか、「国庫補助金（学校施設環境改善交付金等）」及び「市債（公共施設等適正管理推進事業債等）」を活用し、財源に充てるものとします。なお、「公共施設等適正管理推進事業債」を活用するにあたり、集約化する従前施設は、市民体育館・香陵武道場・勤労者体育センター・旧静浦東小学校体育館・勤労青少年ホーム（一部諸室を除く）とします。

※ 「PFI（Private Finance Initiative）」とは、公共施設等の設計・建設・維持管理・運営に、民間の資金やノウハウを活用することで、より効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図ることを目的とする手法です。






体育館の適用事例は、加古川市立総合体育館（H17 供用開始）、墨田区総合体育館（H22 供用開始）、名古屋市守山スポーツセンター（H22 供用開始）、八王子市総合体育館（H26 供用開始）などがあります。

(3) 概算整備費

ここ数年間に新築した全国の類似事例を参考に、現在想定する新市民体育館の延床面積から算出した「概算整備費（工事・設計・工事監理・備品等）」は、約 74 億円を見込みます。

(4) 事業スケジュール

上記の事業手法の検討を踏まえ、現在想定している事業スケジュールを次のとおり示します。

年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度
立体駐車場 （現地建替）	 暫定駐車場 整備（平面）	 現駐車場 解体（立体）		 新駐車場 整備（立体）			
市民体育館 （移転建替）			 新市民体育館 事業者選定	 新市民体育館 整備			

5-3 事業運営の方針

現在のスポーツ需要を満たしつつも、将来の人口減少や少子・高齢社会を見据え、新たな需要を掘り起こし、スポーツ人口を拡大するため、個人参加型プログラムの充実を図るなど、これまでスポーツに親しむ機会の少なかった層をターゲットに積極的な事業展開を図ります。

また、市体育協会や各競技団体に加え、総合型地域スポーツクラブやプロチームなどスポーツ振興施策の担い手と連携した各種事業を行うとともに、スポーツ合宿やランニング・サイクリングイベントなど、商業・観光業との相乗効果も期待できるコンテンツを積極的に取り入れていきます。

< 団体利用エリアの事業運営イメージ >

曜日 区分	貸出区分 (2.5h単位)	アリーナ競技場 (5面)		武道場 (4面)			スタジオ (多目的室)
		メイン (3面)		サブ (2面)	畳敷き (2面)	板張り (2面)	
平日 (月-金)	8:30-11:00						
	11:00-14:00						
	14:00-16:30	団体利用	少数利用	教室利用	団体利用	教室利用	団体利用
	16:30-19:00						
	19:00-21:30						
休日 (土日祝)	8:30-11:00						
	11:00-14:00						
	14:00-16:30	大会利用	大会利用	大会利用	大会利用	大会利用	団体利用
	16:30-19:00						
	19:00-21:30						

< 少数・個人利用エリアの運営イメージ >

曜日 区分	貸出区分 (2h単位)	トレーニング室	卓球場 (8台)	弓道場 (10人立)	子ども体育室 (キッズルーム)
平日 (月-金)	8:30-10:30				
	10:30-12:30		少数利用	個人利用	個人利用
	12:30-14:30	個人利用			
	14:30-16:30		教室利用	教室利用	教室利用
	16:30-18:30				
	18:30-21:30				
休日 (土日祝)	8:30-10:30				
	10:30-12:30		少数利用	個人利用	個人利用
	12:30-14:30	個人利用			
	14:30-16:30		教室利用	教室利用	教室利用
	16:30-18:30				
	18:30-21:30				